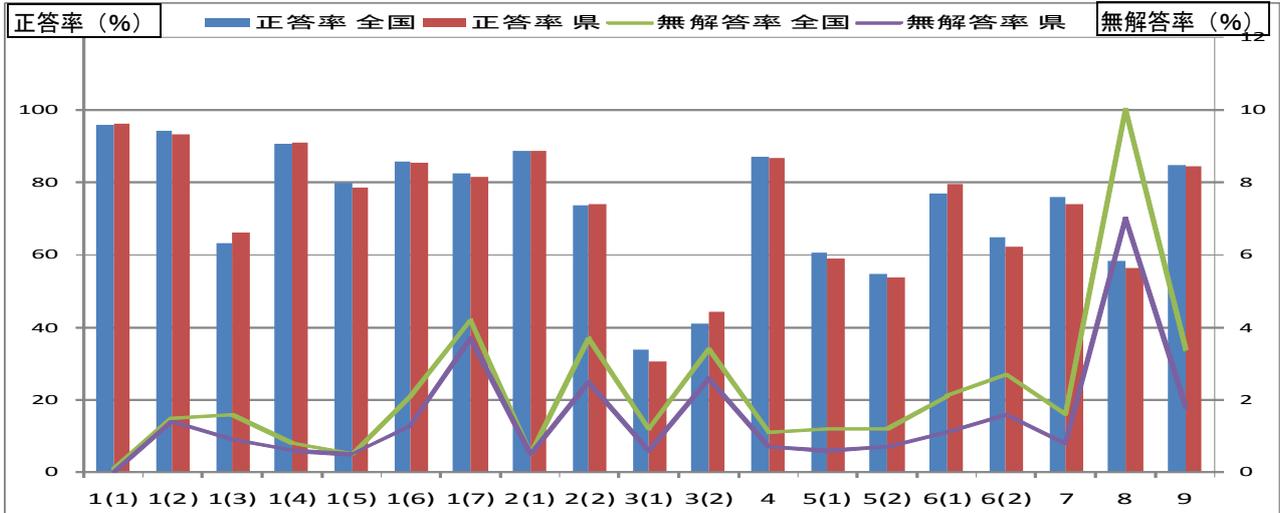


平成24年度全国学力・学習状況調査結果を授業改善に活かすために

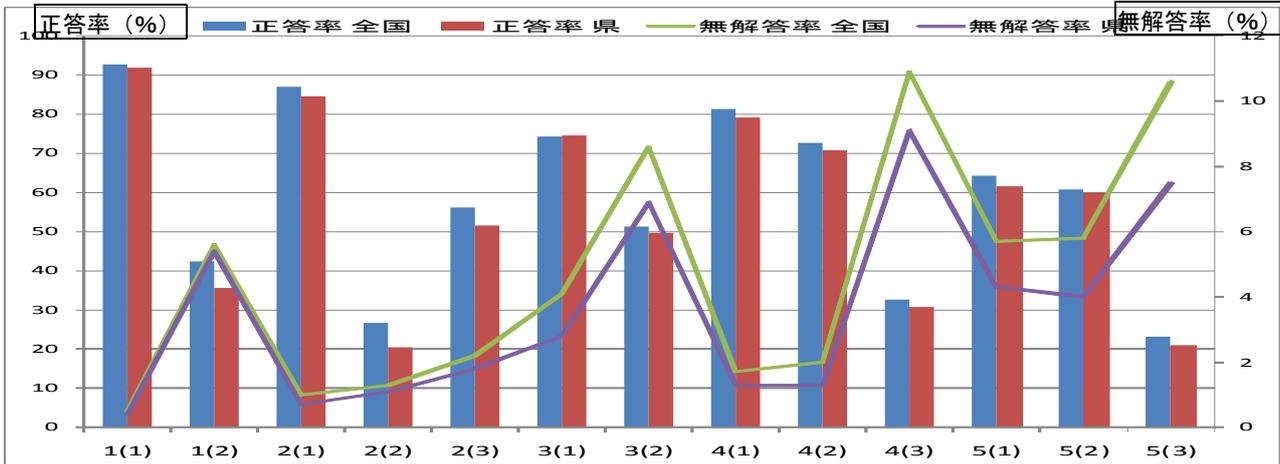
県北教育事務所

算数（小学校）

[小学校算数A] ※ 各設問ごとの正答率（棒グラフ）・無解答率（折れ線グラフ）：全国（公立）県平均比較



[小学校算数B]



【結果】

- 整数、小数、分数の計算、基準量を求めるための式、四角形の角の大きさなど、基礎的・基本的な知識・技能に関する問題の正答率が全国平均より上回っている。
- ほぼ全ての問題において無解答率が全国平均より低く、自分なりの考えを書こうとする意識が高い。
- 反面、正答率も低い設問が見られ、記述するが不正解になっている傾向もある。
- 場面と図とを関連付けて二つの数量の関係を捉える問題や立体図形における辺や面の位置関係についての問題、図形を構成する要素についての問題で全国平均を2ポイント以上下回っている。
- B問題で、正答率が全国平均より2ポイント以上下回っている設問が13問中8問を占める。

【成果と課題】

- 基礎的・基本的な事項の確実な定着を目指して、計画的・継続的に学習の場を設定したり、個別指導の場を設けたりして地道に取り組んできた成果が現れている。
- 指導過程の中に、自分の考えをもたせる場や考えを書く時間を意図的に設けてきた成果が現れている。
- 特に次の点を課題として改善を図る。
 - ・領域ごとの基礎的・基本的な知識・技能をバランスよく、より一層の定着を図ること。
 - ・算数的活動を通して表現方法を知ったり、筋道を立てて思考を進めたりできること。
 - ・進んで自分の考えを発表したり、友達の考えを聴いてよさや違いを感じ取ること。



【今後の指導改善】：(県)

- ◇ 児童生徒の実態に応じた年間指導計画の作成と計画に沿った授業実践
- ◇ 教材の価値や単元のねらい、児童生徒の実態に応じた単元、授業設計
- ◇ 算数的活動、数学的活動を重視した指導の充実
- ◇ 教材や問題の工夫
- ◇ 言葉、式、図、表、グラフ等を活用して表現したり、読み取ったりする活動の重視
- ◇ 学習内容の確実な定着を図るための適用・まとめの時間と評価の充実

＜県北の視点：「確かな学力」の向上のために＞

◇ 「学級・学習集団づくり」「生徒指導の機能」を活かして

子ども一人一人が自分らしさを発揮し、それを集団の中で認め合い、高めていくことができる基盤があってこそ授業が成果のある学びとなるのである。そこで、算数科の授業においても、言語活動や体験活動を重視し、特に次のような点を大切に、学習の効果を高めたい。

- ・ 児童の活躍の場をつくり生き生きと学習に取り組み、自分の考えを進んで発表し合う。
- ・ 友達の考えを受け止めながら真剣に聴いたり、友達に分かりやすく話したりする。

◇ 充実した授業づくりのために

※ () : 「充実した授業づくりのために」との関連

- 単元・全体を見通した意図的な指導構想の工夫 (意図的な習得、活用、探究の取組み)
 - 単元・一単位時間の構想において、基礎的・基本的な知識・技能を習得する時間、知識・技能を活用する時間を意図的に位置付けているか。
 - 適用・習熟の時間を努めて確保し、一単位時間における学習内容を確実に定着できるようにしているか。

例えば、単元構想において、この時間は言語活動を重視し思考力の育成をねらう時間、この時間は繰り返しの学習で適用・習熟を図る時間などというように授業のねらいを明確にして指導することが大切である。また、一単位時間において、自力解決の時間に一人一人に解決をさせようと個別指導に時間をかけ過ぎてしまい、練り上げる時間や適用・習熟の時間がとれない授業がみられる。自力解決時の机間指導は児童の考えの傾向をつかみ、練り上げる構想を練る時間と考え、学び合いの時間や習熟の時間を多く確保したい。そして、学び合いを通して思考力を高めたり、適応・習熟の時間にできていない子には個別指導し、できている子にはより高度な問題に取り組ませ、上位児を伸ばす手だてを講じたりするなど、めりはりのある授業設計を心掛けたい。

- 筋道を立てて考え、考え方や理由を表現する力の育成 (自分の考えをもたせる場の工夫)
 - 自分の考えをもつための算数的活動を積極的に取り入れているか。
 - 自分の考えを言葉や数、式、図、表、グラフなどを用いて分かりやすく表現する(書く・描く)活動を取り入れているか。

思考は表現する(書く・描く)ことによって整理されてくる。日頃から、自分の考えを自分なりにかき表す活動を積極的に授業の中に取り入れたい。そのためには、算数の用語や記号を使ったり、図や表に表したり、表現の方法を具体的に指導することも大切になる。

- 互いの考えを伝え合う言語活動の重視 (効果的な「学び合い」による「思考の共有と吟味」)
 - 考えの紹介ではなく、理由や根拠を伝えたり質問したりする学び合いになっているか。
 - 教師のコーディネートのもと、全員が思考する学び合いになっているか。

例えば、89-57の筆算のしかたの学習では、筆算でそのまま計算し表記する、十の位・一の位を分けて計算することを言葉で説明する、図で表現するなどの考えが出される。その際、単に発表させて終わるのではなく、教師は、本時の着地点を踏まえた話し合いの視点を明確にし、言葉や図、式を相互に関連付けたり、児童の考えをつないだりすることで思考を深めさせるなど、教師がコーディネートしていくことが大切である。そこが、教師の腕の見せどころである。